

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1270101569
法人名	レビーケア株式会社
事業所名	レビーグループホーム 白雲館
訪問調査日	平成 19 年 9 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 11 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1270101569		
法人名	レビーケア株式会社		
事業所名	レビーグループホーム 白雲館		
所在地 (電話番号)	千葉県千葉市中央区弁天3-17-2 (電話) 043-206-8892		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	11月25日

【情報提供票より】(19年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	27 人	常勤 25 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.9	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 450 円
	夕食	500 円	おやつ 食事代込み
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	13 名	男性 2 名	女性 11 名
要介護1	9 名	要介護2	2 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 66 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	えりやま内科皮膚科医院、学園前歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. デイサービス白雲が1階に併設されており、デイサービスの利用者がショートステイしたり、反対に2, 3階の利用者が時にデイサービスのリハビリを受けたり等それぞれの利点がうまく活用されています。
2. この複合施設の事務長が地元生まれの、地元育ちで地域住民との繋がりが深く、地域密着の運営を展開しています。
3. 千葉駅から徒歩で10数分の、歴史のある住宅街に立地していて、直ぐ近くには協力医院があり、迅速な治療が受けられます。
4. 護国神社が隣接し、さらにそこから広い千葉公園へと続き、この一帯は緑に恵まれ、利用者にとって安全で安心な散歩コースとして適しております。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価は共用空間と居室の家庭的環境づくりを改善することが望まれるとのことでしたが、これは達成されています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、その他の職員が全員で自己評価の意義を理解し、自己評価に取り組んでいます。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	最近、第1回の運営推進会議が開催され、主な討議内容は災害発生時の地域の協力を得ることでした。しかしこの会議には家族会代表が参加していません。早急に家族会を組織化し、その代表に運営推進会議のメンバーとして参加していただくことが望まれます。そうすることにより、メンバー皆が自己評価や外部評価など多岐にわたる問題について話し合いを持ち、そこでの意見等をホームの運営に反映させることが期待されます。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	各利用者家族へ月1回ホームの新聞、本人のモニタリング表、出納帳を郵送しています。また、家族が来所された時に、個別に利用者の意見等を聴いています。しかし家族会はまだ組織化されていません。最低年1回は家族会を開催し、家族の意見等を直接聴くことが望まれます。できるだけ早く家族会を立ち上げると共に、その代表が現在の運営推進会議にメンバーとして参加することにより、運営に大いに役立つ話し合いが行われることが期待されます。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	複合施設の事務長がこれまでの地域との深いつながりを活かして、茶話会やお祭り等地域との交流に取り組んでいます。今後も引き続き地域の人々との交流の輪を一層広げられることが望まれます。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念に加えて事業所独自の5つの目標が掲げられ、その中に「地域の中でなじみの暮らしを続ける」という趣旨の理念が取り込まれています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットの見やすい場所に独自の理念が掲示されており、毎日朝会において職員がそれを唱和、確認し、日々の介護に当たっています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で催される茶話会や商店街のお祭り等に参加して、地域との交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票や外部評価報告書を基に改善計画書を作成し、達成目標期間を立てて具体的な改善に取り組んでいます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近、第一回運営推進会議を開催し、災害時の地域の協力について話し合った段階で、評価への取り組み等について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしていくことはこれからの課題です。現在、家族会が組織化されていず、従って家族会の代表がメンバーとして加わっていません。	○	運営推進会議の主要な構成員の1つである家族会をまず早急に立ち上げ、その代表を運営推進会議のメンバーに加えることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護を受けている利用者については、区の社会援護課との連絡を密にして、区より1月に1回来所していただいて、その方の生活を守っていただけるよう努めています。	○	市の介護相談員制度を活用して、ホームに相談員を受け入れ、職員や利用者等の話を聴いて、相談に乗って頂くことを検討することが期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各家族に月1回の「みのり」という新聞、出納帳や支援経過・モニタリング表を郵送しています。利用者の体調が悪いときには、都度家族へ電話で報告しています。家族アンケートでは書面の報告だけでなく職員と直接話し合いを持つ機会が欲しいとの要望が出ています。	○	最低年1回の家族会を開催して、家族の意見等を“直接”聴く機会を設けることが望まれます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は管理者や職員が家族の来所時に聴いており、また玄関に意見箱を置いて意見等を運営に反映させていますが、そうした意見等を「外部者」へ表せる機会が提供されていません。	○	運営推進会議にメンバーとして家族会代表を加えてその意見等について外部の関係者と率直に話し合い、得られた改善策についてホームの運営に反映させることが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については年度1～2名以内にとどめるようにしています。離職の場合にも、利用者には別の理由を言ってダメージが無いように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画に従って、研修を受けさせています。外部研修も都度、重要度を考慮して受け取るように取り組んでいます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に所属し、意見交換や勉強会を行っています。また法人内ではありますが、異なった地域の特徴を持つホームの相互訪問を実施しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの体験入居や、併設のデイサービスの利用を通じてホームの雰囲気に徐々に馴染んでもらうよう取り組んでいます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員の関係は常に対等の立場であることを念頭に入れて、敬意を持って生活支援に励んでいます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々に今の「私の姿と題した自画像」を描いてその思いや意向が、誰にでも一目見て判りやすい工夫をして、「心身の情報シート」が作成されています。支援に当たっては、このシートに沿って利用者ニーズに対応しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の生活歴、状態、希望等に加えて、家族にもできるだけ多くの意見をききだし、それらを取り入れて利用者本位の個別介護計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の定期的見直しをしていますが、状況の変化によっては毎月のモニタリングや職員会議において随時見直しを踏って新しい計画を作成しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助等の外出支援、自宅等への移送・外泊支援、併設するデイサービスの利用等を実施しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院が定期的往診を実施しています。また、利用者のニーズに合わせて、通院受診支援を行っております。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケース会議・担当者を通して利用者本人と家族と話し合いをし、ターミナルに関する記録を取ってそれをチームとして共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症高齢者の尊厳保持に関して定期的研修しており、特に身体拘束は絶対に行わないよう徹底されています。また、利用者の思いや希望の表出を促す自己決定への支援では、食事、着替え、外出・散歩などでも利用者自身の意思決定で行われ意向が尊重されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの作成した毎日のプログラムについて、利用者には押し付けず意向を尊重し、優先しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時、職員もテーブルにつき、利用者と一緒に食事をしながら懇談し、食べこぼし等に対する支援をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各利用者の「生活暦シート」を作成し、入浴時間、湯温、同姓介助等のニーズに合わせて入浴支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各利用者の「生活暦シート」に基づいてそのような生活を送れるように支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園や買い物等に出かけるよう支援していますが、家族アンケートではあまり外出していないとの意見があります。	○	施設に隣接した豊かな公園には散策ルートがあり、また地域でよりよく暮らすための生涯学習センターなど公的福祉資源にも恵まれた環境にあるので、利用者の生きがいを醸成する自立の向上と安心できる生活空間拡大の2つの観点ら、日常生活での外出支援にさらなる工夫と努力が期待されます。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夕食の準備など職員が多忙な時以外は施錠していません。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練(消防署の訓練、自主防災訓練)を実施し、地域の協力を働きかけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者ごとに摂取量等チェック表を作成し、毎日記録、管理しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月1回のイベント写真を壁に貼ったりや折り紙等の作品を飾ったりして季節感や生活感を醸し出すよう取り組んでいます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、本人と家族に対し使い慣れた家具や好みの備品等を部屋に持ち込むよう説明をしていて、実際に使い慣れたダンスやテレビ等が居室に備えられています。		